市報 いいやま

No.593

平成 20 年（2008）11 月 15 日発行

発行人：飯山市長　石田正人

編　集：飯山市役所総務部
庶務課秘書広報係

〒 389-2292 長野県飯山市
大字飯山 1110-1

電　話：0269-62-3111

ＦＡＸ：0269-62-5990

インターネットホームページアドレス

http://www.city.iiyama.nagano.jp

E-mail : kikaku@city.iiyama.nagano.jp

もくじ

「飯山トンネルウォーク」開催 ・・・・・・・・2ページ

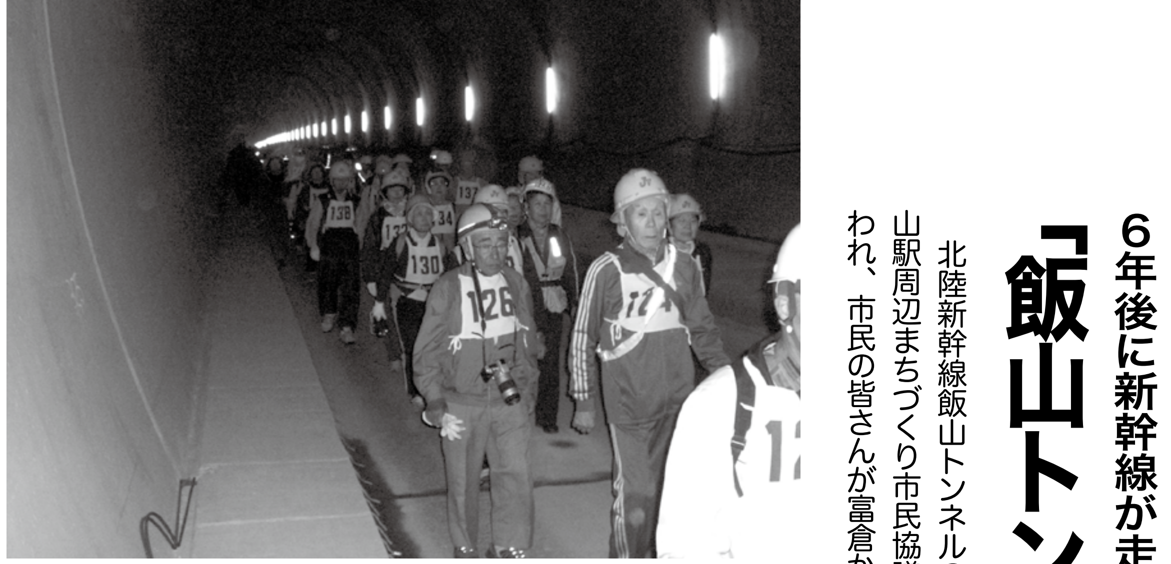
新幹線を核としたまちづくり会議が市長へ提言・・・・4

「あったか生活応援金」のご案内 ・・・・・・・・5

審議会からごみ減量について答申 ・・・・・・・6

「いずみだい保育園」開園・・・・・・・・・・7

今冬の除雪体制 ・・・・・・・・・・・・・・8〜9



６年後に新幹線が走る飯山トンネルを市民３００人が完歩！

「飯山トンネルウォーク」開催

北陸新幹線飯山トンネルの貫通を記念し、飯山市・飯山市教育委員会・北陸新幹線飯山駅周辺まちづくり市民協議会が主催した「飯山トンネルウォーク」が10月19日㈰に行われ、市民の皆さんが富倉から飯山までのトンネル坑内約6.6キロを歩きました。

平成26年度末に開業予定の北陸新幹線は、昨年末に飯山から新潟県上越市までを結ぶ全長22キロあまりの長大トンネル「飯山トンネル」が全貫通したほか、現在、新幹線飯山駅の高架橋工事など市内でも開業に向けた工事が各所で行われています。

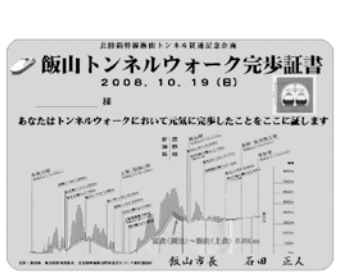
今回行われた「飯山トンネルウォーク」は、開業前のこの時期にしかできない貴重な機会とあって、秋晴れに恵まれたこの日に集まったのは、事前に申し込みのあった６歳から93歳までの市民の皆さん約３００人。集合場所の市公民館からバスで移動し、出発地点である富倉地区濁池の工事用トンネルから６つの班に分かれ中へ入り、まずは飯山トンネルの本抗を目指しました。そして本坑に入った瞬間、蛍光灯の光が照らす舗装された内部が見えると、参加者からは驚きや感嘆の声があがりました。

△途中の休憩地点には、工事に関するパネルや線路などの模型が展示されました。

途中、記念撮影をしたり、施設の整備を行う鉄道・運輸機構の職員に質問等しながら歩いた参加者の皆さん。中間の休憩地点には、パネルや連結器の模型などが展示され、皆さんは興味深そうに見学していました。

そして約２時間かけて、全員が元気に飯山地区上倉までの6.6キロを踏破。ゴール地点では、到着した参加者に記念の完歩証書が渡されました。

鉄道・運輸機構飯山鉄道建設所、工事関係者、岳北消防署など関係機関の多大な協力をいただき無事に開催することができた今回のトンネルウォーク。参加者の皆さんもこれまで以上に新幹線を身近に感じる機会となったようで、「いい記念になった」「新幹線が来るということを実感できた」等の感想が多く聞かれました。



△当日は参加者全員が完歩。ゴール地点では「完歩証書」が渡されました。

△飯山地区上倉のゴール地点。トンネルから出て完歩証書を受け取る参加者の皆さん。

常設展人形は80体程度を展示

第4回人形館建設委員会報告

第４回の人形館建設委員会が10月４日に行われ、基本構想をもとに展示機能・交流機能・市民活動機能の三機能の具体化について検討されました。

展示の規模・方法について

人形館の最も中心的な機能となる展示機能。展示数については、常に新鮮な展示を行うための展示替え等が必要なことから、当初から詰め込むのではなく80体程度を目安として余裕を持った展示をしていくこと、個々の人形にあった様々な空間を可変的に用意する必要性があることから可動性のある展示室とすること、人形を見てふるさと飯山がわかる展示をすることなど意見が出され、そうした方針で進めることが確認されました。

交流機能について

交流機能については、展示室も含ませて考える案や、交流促進のために自由なスペースを用意すべきとの意見が出されました。市民活動機能では、募集を始めた「人形館サポーター」の皆さんの意見を聞きながら、まずはどのような関わりができるのかを検討していくこととしました。

また、トイレをはじめとしたバリアフリー対応についても意見が出されました。今後は、いただいた意見をもとに、作家本人の想いも伺いながら集約し設計事務に入る予定です。

建設計画について

建設計画の予定は、11月に設計協議を行い、12月末までに基本設計を決定していきたいと考えています。

今後、平成21年２月までに実施設計の完了、同３月に建築工事の入札、４月以降から工事着手して、翌22年３月の竣工、４月下旬の開館を予定しています。

お問い合わせ
教育委員会事務局管理学習課（飯山市公民館内）
☎62３３４２

人形のふるさと飯山で初の開催に全国から 8712 人が来場

高橋まゆみ創作人形展 開催

10 月 5 日から 26 日までの 19 日間、高橋まゆみ創作人形展が飯山市ふるさと館で開催されました。期間中は全国から 8712 人のお客様が来場。市民の皆様にも多くのご観覧をいただきましたが、遠くは福岡県・三重県・宮城県からお出でいただいた方もありました。

来場者からは「なつかしい」「癒される」「心が和む」といった感想から、「祖父母・父母を思い出し涙が出た」「人形から離れがたかった」など多くの感激のメッセージをいただきました。

また、人形館建設については「全国的に PR すべき」「飯山の良さを入れた人形館に」「楽しみにしている人が来て良かったといえる施設に」等、具体的な要望も数多く寄せられました。

市長の

悠久のふるさとづくり ❻

飯山市長　石田正人

先日、庭先で太田地区北条の城山といわれる山の紅葉を見ていると、一筋の煙が空に高くのぼっていくのが見えました。白い煙がまっすぐにのぼっていく・・・不思議に思っていると、翌日の新聞でそれが「狼煙（のろし）」だったと知りました。

通信手段のない昔、狼煙は人と人をつなぐため知恵を絞り苦労と努力で生み出された通信方法だったと思います。戦で使われてきたという狼煙も、煙の出し方で村々の催し事などにも合図として使われたかもしれません。今日の地域のつながりは、狼煙があがっていた頃から受け継がれてきたはずです。ここで人のつながりの大切さをもう一度、考える必要があると思います。

先月、飯山市駅伝大会が開催されました。交通の問題等もあり、これまでは市内一部の地域だけを通るコースでしたが、今回は飯山警察署、交通安全協会など関係各位の多大なご指導・ご協力をいただき、出場全地区を通るコースで実施することができました。沿道では孫の応援に来たおじいちゃん、おばあちゃんなど、どの地区でも沢山の応援の声が聞こえてきました。どんな大変な仕事でも市民の皆さんに近づけば近づくほど心のタスキがつながれ協働の力が強まる。今回の駅伝も家庭の話題、そして地域の話題となってつながってゆくと思います。

先人から渡して頂いた悠久のふるさと飯山。新幹線開通も先人が与えてくれた宝であり、これを次世代へつなぐことは現代に生きる私たちの役割です。駅伝選手が次の走者にタスキを渡すように、私達にもタスキを待つ次の世代がいるのです。先般、県外にお住まいの方より「私の生まれ育った飯山をしっかり守ってください」と大変な額の浄財を寄付していただきました。飯山で生まれ育った方はみんな応援してくださるのです。

市では企業誘致を推進しています。みんなが生まれた飯山に若者が残り働けるよう、今後も全力をあげ取り組んでいきます。